

大山隆徳さん

三重県伊賀市から派遣

てくれました。





キラッと パチリ

さんを紹介します で平成24年4月から新築家 る伊藤大輔さんと大山隆徳 屋等の評価業務にあたってい んの中から、今回は資産税課 ている長期派遣職員の皆さ 市の復旧復興支援で訪れ

ティアで石巻市を訪れてお た。平成23年8月にもボラン り、「まちは徐々に落ち着き せればと派遣を志望しまし た業務経験を被災地で生か 伊藤さんは、これまで培っ

の限りを尽くしたいです」と のも事実です。赴任中は力 大変な思いをされている方々

を取り戻しつつありますが

がまだたくさんいらっしゃる

うと語弊がありますが、皆 りと業務をまっとうしたいで さんの力になれるようしっか 時には、全国の方々に助けて 意欲的です。 す」と決意をのぞかせます。 いただきました。恩返しと言 んは、「阪神・淡路大震災の 実家が神戸にある大山さ

全力でまちの復興をサポ

がある日突然、マロは我が 反対していました。ところ 達が欲しがっても、いつも す。私は犬や猫が嫌いで、孫 家にやってきました。 来てからもう5年になりま 我が家に犬の「マロ」が

と、マロは「一匹」ではなく 散歩も、5年も経つとなん 歩に連れていきます。この 歩係になり、朝夕の2回散 になったね、マロ」。今では 「一人」扱いになり「格上げ

み届 お手 おたより から



ありがとう

予想通り私はマロの散

のような関係で付き合って

てみるので、「アメとムチ」 す。私も少しだけ引っ張っ

ちが夕方帰ってくる頃に、 れてありがとう。家の人た 外に出てお迎えです。 ナーです。マロ気遣ってく す。散歩の時等は、私の歩調 に合わせて歩いてくれま す。今になれば良きパート ちが通じ合っているようで

私の言う事も理解し、気持 折に触れて、家族の話題

石巻市立病院

からも一緒に歩こう、がん も留守番ありがとう。これ でも知っているマロ、いつ います。花火が怖いマロ、何

(細川惠子

第3回 インフルエンザワクチンのお話

石巻市立病院 内科医員 佐藤

インフルエンザはインフルエンザウィルスが口や鼻から体の中に入り、 細胞内で増殖することで起こります。数日の潜伏期間を経て、発熱や喉の 痛み、鼻水、咳、筋肉痛等の症状が起こります。多くの方は1週間程度で自 然に治癒しますが、肺炎等を併発し重症化する場合もあります。

たくない時のマロは、すぐ の中心はマロです。散歩し

帰ろうとして引っ張りま

ワクチンによりインフルエンザによる健康被害を最小限にとどめる効 果が期待できます。(あくまでインフルエンザウィルスに対するワクチンで すので、「かぜ」を予防する効果はありません)ある報告では、ワクチン接種 により65歳以上の健常な高齢者について発病を約45%阻止し、死亡を 約80%減少させたとされています。ワクチンで完全に発症を抑えられる訳 ではありませんが、高い確率で重症化を防ぐ効果があるのがポイントで す。(発症予防にはうがいや手洗い、適度な湿度を保つといった行動も大 事です)ワクチンによる効果は接種した2週間後から5カ月後程度まで持 続するとされています。インフルエンザは例年12月下旬から3月ころに流 行しますので、12月上旬までにはワクチン接種を行いたいですね。

65歳以上の方(および一部の60歳以上の方)は一部公費負担となり自 己負担金1,000円でワクチン接種を受けられます。かかりつけの医師に相 談してみてください。

☆次回1月1日号は、地域包括ケアのお話です。

◇投稿募集

がった石巻を見られればうれ

しいです」と異口同音に語る

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとって おきの話をお寄せください。

テーマ「ありがとう」

らだと思いますが、いつか本

当の意味で震災から立ち上

復興の正念場はまだこれか

巻は忘れられないまちです。 任期を終える予定です。「石

2人は、来年3月31日で

日常の生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピ ソード)をお聞かせください。

数 400字以内 字

投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書

広報課あてにお送りください。掲載の場合はペンネームを可能と しますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいた もの全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係 で内容を調整させていただくことがあります。

問 秘書広報課(内線4024) 〒986-8501(住所不要) Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

意多の話題



石巻地区

子どものまちで 職業体験

10月5日(土)・6日(日) アイトピア通り等

小中学生たちが店や病院、銀行等を開き、職業を体験する「子どものまち・い しのまき2013」が中心市街地で繰り広げられました。参加した子どもたちは 店を運営したり、そこで働いて地域通貨のマキー、を稼ぎ、他の店でサービス を受ける等、実社会のシステムを楽しみながら学びました。高円宮承子さまが 日本ユニセフ協会の職員として訪問され、子どもたちを見守られました。

石巻地区

即は合いの心質を超過まつり

9月29日(日) 石巻駅前にぎわい交流広場





「であいとふれあい」をテーマに市ボランティア連絡協議会が「2013いしの まき福祉まつり」を開催しました。平成元年から続いている催しで、震災のあっ た平成23年以外は、毎年実施しています。今年も市内の団体やボランティアに よる趣向を凝らしたステージショーや模擬店等が繰り広げられ、参加した人た ちは晴れ渡った秋空の下でイベントを通して福祉の心を培いました。